



すべての魂の追悼

コンスタンシオ・C・コンスルタ神父

日々は何と早く過ぎていくのでしょうか！ 多くの人々はすでに11月だということに気付かないかもしくはあたり前のように考えています。この11月はすべての通常暦（聖霊降臨以降）の時のように、典礼はキリストの命を模範としキリストの霊の指導の下にある聖霊による復活を示し表します。

11月は煉獄の魂のために捧げられます。11月2日はこの世を去ったすべての信徒を追悼する死者の日です。教会はこの世を去りながらまだ天国の喜びに与っていない神の子たちを追悼します。教会は永遠の旅に出た人々のために祈りを捧げることがいつも教えています。旧約聖書にでさえも「復活について信仰深い」想いを持つ人々によって死者の魂に祈りと施しが捧げられています。「信仰深く眠りについた人々には恩寵がもたらされ」また「死者への聖なる健全な思いのための祈りは彼らを罪から解放してくれる」と信じられています。

聖パウロは死者に対して我々は無知であったり悲嘆しなかつたりしてはならないと私たちに注意を促しています。主御自ら天から降りて来られることにより、キリストのうちにある死者は蘇るのです。それゆえにカトリックは贖罪と「哀れな魂」に苦しむこと、特に十字架上の無限の贖いが再現される聖餐を捧げること、神の英知と慈愛により決まる尺度のもと信仰の贖罪を奨励し、働きかけることを羨むのです。この強い信仰心に伴う贖罪は7年と1日7回の隔離、通常において月のどの日でも課せられる贖罪です。

教会歴の1年も終わりに近づき、私たちはこの世界だけではなく私たち自身の終わりの時を考えることを求められます。典礼歴の最高峰は王たるキリストの祝日です。この祝日は人類とそれにかかわるすべてのものへのキリストの最高の権威を確立するものです。その後に私たちは来るべき主の栄光の始まりである待降節を迎えます。